

5. 第1部：活動報告

【司会：小田】

これから第1部を始めたいと思います。「COVID-19 感染拡大状況下での福岡県における血液製剤供給体制および輸血医療の検証」をテーマに、4名の先生にご講演いただきます。ここからの進行につきましては、福岡県赤十字血液センター所長、松崎先生にお願いしたいと思います。

【座長：松崎先生】

福岡県赤十字血液センター 所長 松崎浩史

皆さま、こんにちは。では第1部を始めさせていただきます。

第1部では最初の2題を血液センターに、2020年度中心に現在の献血状況と血液供給状況の報告をお願いいたします。次の2題は、医療機関の先生に例年行われている主要125病院へのアンケート調査結果のご報告と、コロナ患者を受け入れている医療機関での血液使用状況、コロナ禍での献血ご協力について報告をいただきます。

それでは早速ですが、第1席「コロナ禍における献血確保」についてご発表いただきます。演者は福岡県赤十字血液センター事業推進部献血推進課、榎木課長です。ではよろしくお願いします。

① 「コロナ禍における献血者確保」

福岡県赤十字血液センター 献血推進課 榎木 健治

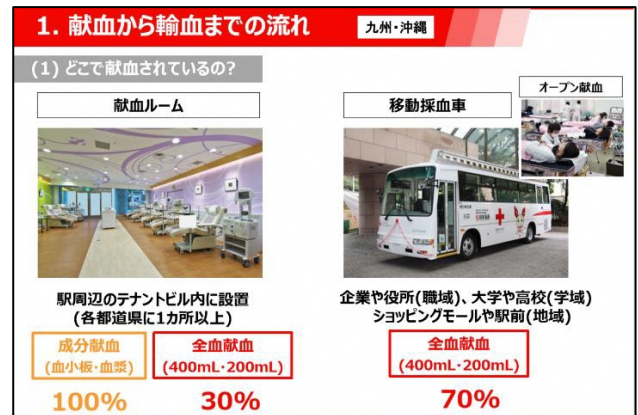
コロナ禍における献血者確保



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

福岡県赤十字血液センター

2020年における「コロナ禍での献血者確保」について、発表します。



献血は、献血ルームに来ていただいて献血をお願いする方法と移動採血車で、県内の職域、学域、地域、街頭といった会場に出向き献血をお願いするスタイルで展開しています。

献血の種類は、全血献血と成分献血が献血の2種類あり、献血バスでは全血献血を採血しており、全体の約70%を確保しています。献血ルームでは全血献血が30%、成分献血は100%献血ルームで確保しています。

【福岡県の献血ルーム】

- おっしょい博多**
福岡市博多区博多駅前2-1 博多バスターミナル6階 ☎ 092-476-1400
- 天神西通り**
福岡市中央区大名1-15-1 天神西通りのクエア 地下1階 ☎ 092-726-1188
- キャナルシティ**
福岡市博多区住吉1-2-25 キャナルシティ ビジネスセンタービル1階 ☎ 092-272-5853
- くろさきクローバー**
北九州市八幡西区西畑聖明3番1号 イオンタウン 基盤1階 ☎ 093-644-1211
- 魚町鐘天街**
北九州市小倉北区魚町1-3-3 白旗ビル ☎ 093-551-1211

受付時間や定休日、地図などの詳細情報は、福岡県赤十字血液センターのホームページからご覧ください。

[福岡 献血](#) [検索](#)

福岡県内の献血ルームを紹介します。県内に5施設開設しており、福岡市内に3カ所、北九州市内で2カ所の献血ルーム、計5カ所で展開しています。

緊急事態宣言直後の対応

4/8 厚労省から各県・日赤への通達

「採血業務の継続及び献血血液の安定的な確保のための対応について」

献血は医療体制の維持に不可欠なものであることを踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針(令和2年3月28日(令和2年4月7日改正)新型コロナウイルス感染症対策本部決定)の別添「緊急事態宣言時に事業の継続が求められる事業者」の医療関係者には、「献血を実施する採血業」が含まれていることについて、貴管下市町村及び関係団体等に周知するとともに、献血会場の確保等、献血への協力を依頼すること。

4/10 日本赤十字社の対応

- 3月の池江さん効果は国民からのプレゼント、無駄にするな
- 採血事業者の責務としてあらゆる手を尽くせ
- 献血ルーム閉鎖に抵抗せよ
- メディア報道を通じて献血募集を開始
- 献血会場における安全性確保として『献血予約制』を推進

（緊急事態宣言下でも献血は必要です）

コロナ禍における献血の実際については、4月7日に緊急事態宣言が発令されました。緊急事態宣言前は各都道府県から不要不急の外出を控えるよう県民へ喚起され、一時的に献血者が減ったという状況がありました。しかしながら「緊急事態宣言時に事業の継続が求められる事業者」の医療関係者には、献血を実施する採血業が含まれていることから、献血は不要不急の外出ではないという報道により、県民の方々が応えていただき、多くの方に献血に来ていただくことになりました。

一方で、報道によって多くの方が献血ルームや移動採血の会場に来場されることによって、三密が防げないことから各献血会場における安全性の確保として、予約献血を推進し、安全に安定した献血確保に努めました。

医療に必要な血液を安定的に供給するために 血液センターの血液需給管理方法を紹介します。

適正在庫数 8,340単位 (平日3日分供給量)

九州・沖縄全体の供給予測量を生産年齢人口比等に基づき各県へ献血必要数を案分

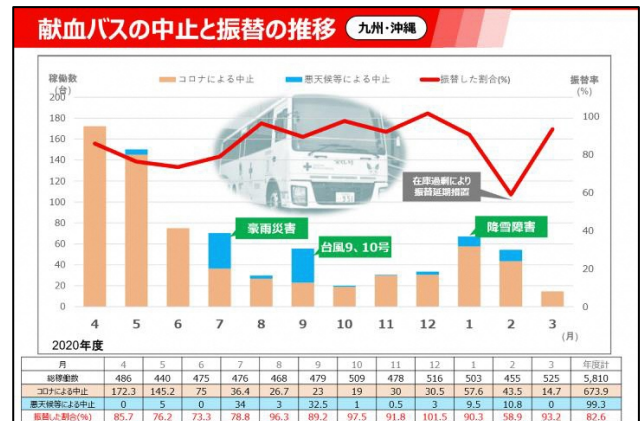
1か月前迄に移動採血車の配車計画を確定 (1台50人)

毎週金曜日に2~4週先までの在庫推移を検証し、過不足対策を実行

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年累計
総輸血量	486	440	475	476	468	479	509	478	516	503	455	525	5,810
コロナによる中止	172.3	145.2	75	36.4	26.7	23	19	30	30.5	57.6	43.5	14.7	673.9
悪天候等による中止	0	5	0	34	3	32.5	1	0.5	3	9.5	10.8	0	99.3
振替率(%)	85.7	78.7	73.3	78.8	96.3	89.2	97.5	91.8	101.5	90.3	88.9	93.2	82.6

当然、献血者確保する前提には、安定供給があり、献血の需給調整も必要になります。スライドは九州ブロック血液センターにおいて需給調整を管理している方法です。九州ブロック血液センターでは、九州8県を一つに集約し血液の確保をしています。常に情報を収集して毎週金曜日に2週~4週先までの在庫推移を検証し、この

グラフを元にその過不足に対するの対策を講じています。



令和2年のコロナ禍では、多くの会場のキャンセル・中止が相次ぎました。スライドは「献血バスの中止と振替」になります。肌色のグラフがコロナによる中止です。多くの会場が中止になりました。特に4月、5月は多く、6月から少し減少していますが、7月に豪雨災害、9月に台風9号・10号が立て続けて来たため、その影響を受けました。1月には中止・キャンセルが増加し、更に大雪による降雪障害により、当日献血会場に向かえず献血が中止になるなど、多くの中止が発生しました。そのため、中止・キャンセルした会場数の振り替え配車をしない、86%は振り替え配車できたものの14%は振り替えができなかったという現状でした。

【2020年度福岡県の献血バス配車状況】

中止・延期 311台
〈約2か月分の計画台数に相当〉

↓

新規協力団体 69団体
振替含む追加配車台数 77台
複数回実施 112台

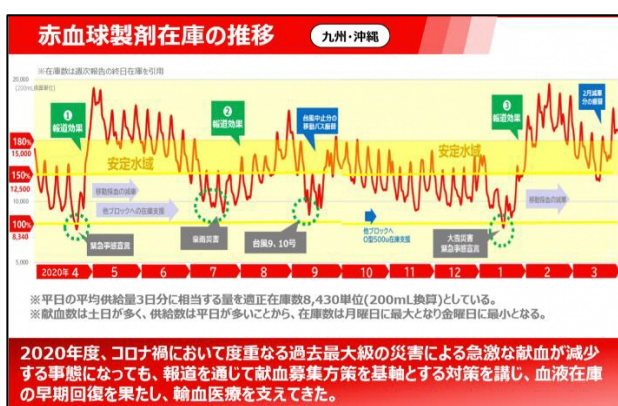
↓

258台配車

福岡県内における2020年度の福岡県内の献血バスの配車状況で、中止・延期が1年間で311台あり、これは約2か月分の採血の計画台数に相当します。

新たに協力いただいた団体が 69 団体。振り替えた配車台数が 77 台、複数回の実施が 112 台あり、合計 258 台の配車ができ、53 台が配車できなかったことになります。

ここでいう複数回実施というのは、年に 1 回実施しているところが 2 回、2 回しているところが 3 回と、1 年間で複数回実施していただくことをいい、多い団体では年間 4 回実施していただいたところもありました。新規の団体も増えましたので、これからの協力団体も少しずつ増加傾向にあると期待しています。

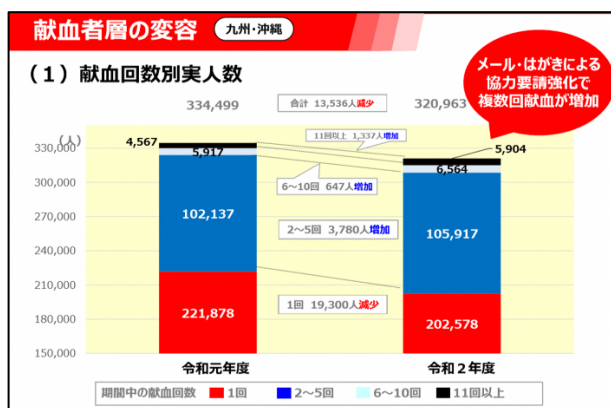


次に赤血球在庫の推移です。安定水域である150%~180%の間で推移していますが、感染症だけでなく、災害があると、安定水域から落ち込む傾向にあり、献血者の募集方策を講じて在庫の底上げをするというサイクルで1年間を通してやってきました。基本は常に安定していることがベストです。

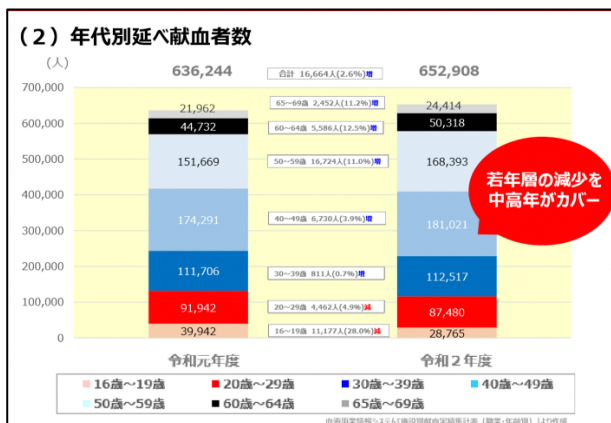


このグラフはコロナ感染者数と血液供給量の推移で、コロナ感染者が増えることで供給に影響が出ているかを

表しています。青の部分が感染者の推移、赤の折れ線グラフが供給数、点線が供給計画です。グラフ上では感染者が増えると供給数が減るように示していますが、実際にはほぼ供給予測どおりで推移しております。この一年では感染者が増えることによって、一番大きく影響したのが献血者確保です。

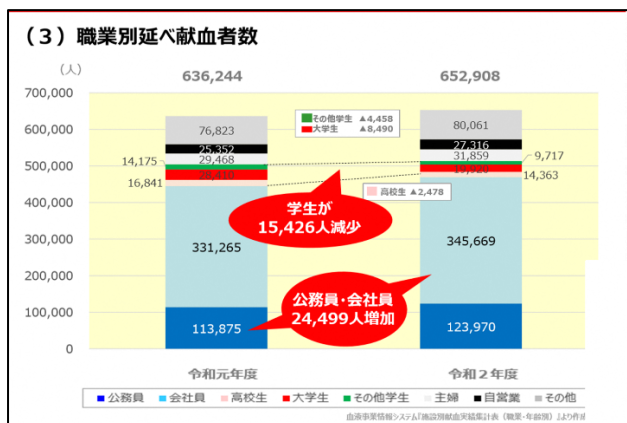


次に献血者層の変容です。令和元年度と比べると、赤が年1回献血をされている方、青が2回以上、さらには6回~10回、それ以上とありますが、令和元年度に比べ年1回の人数が令和2年度は少なくなりました。代わりに、年2回以上献血にご協力いただいた方が増えており、1年間に複数回協力いただくことで、大きく不足することなくコロナ禍における血液確保につながりました。



次に年代別の献血者数の比較です。10代・20代が減少していますが、緊急事態宣言中において、高校や大学等が休校になったり、授業が始まっても感染拡大防止のため、献血計画を中止することによって献血実施校も少なくなり、前年より減少した状況です。

しかし、30代・40代以上の多くがご協力いただいたおかげで、若年層の減少分を中高年層がカバーしていただいた1年でした。



さらに職業別です。前年よりも学生が1万5,000人超減少しており、会社員、公務員の方々が2万4,000人超ほど増加しています。これは学域・職域での献血が中止になり、その振り替えとして街頭献血で実施したことから社会人層の協力が増加した推移となっております。令和2年度はコロナ禍でありましたが、令和元年度と比べ、16,664人の献血者増という結果となりました。

(1) 今後の献血者募集方法について『お願い』

Withコロナ時代において、医療に必要な血液を安定的に確保するためには、安心して安全に献血していただける環境を整え、日々の採血必要数を確実に確保して、血液在庫を過不足なく一定に保つ必要があります。

- 若年層** 若年層献血の推進にご協力をお願いします。
- 活動継続** イベントなどが中止・延期になっても、献血実施継続にご協力をお願いします。
*献血実施に関しては、最寄りの血液センター献血推進課へご相談ください。
- 予約推進** 献血会場の密集回避対策の一つとして、献血ご協力者を事前に募集する際には、時間別予約リストの作成、または、Web会員サイト「ラブラッド」からのご予約をご案内願います。

最後になりますが、With コロナ時代において医療に必要な血液を安定的に確保するためには、安心して安全に献血していただける環境を整え、日々の採血必要数を確実に確保して、血液在庫を過不足なく一定に保つ必要があります。そのため、定期的な献血の実施も必要ですが、若年層の献血推進も重要課題の一つです。高校・大学などの学域献血だけではなく、皆さま方の職場にお

きましても若い方が毎年、新入社員・新入生として入ってきますので、若年層の方々へ献血へ誘導いただくなどの一助をいただければ心強く思います。

次にイベント等が中止や延期になっても、献血実施は継続的に必要です。献血ルームでの協力をはじめ、献血バスの受け入れと献血協力にお力添えいただけると幸いです。

次に感染防止対策として特に献血ルームでは、密集回避をするため予約献血での協力をお願いしています。献血ルームでは献血にご協力いただく方を事前に募集するために、時間別の予約をお願いしています。すでにご承知の方や会員になっている先生方もおられると思いますが、Web会員サイト「ラブラッド」から予約のうえ献血にご協力いただければと思います。また、献血バスでは時間予約での対応が難しいため、事前に献血にご協力いただける人数と血液型を把握するため、ご予約を入れていただきご受付時間中に来場いただくと、血液型別の採血計画ができ、安定確保と安定供給につながりますのでご理解とご協力をお願いします。

ラブラッド のご案内

- 血液検査結果をWebでチェック!
- 全国の献血ルームで献血予約ができる!
- 会員限定のキャンペーンや特典情報をゲット!
- ポイントを貯めて記念品と交換できる!

登録はこちらから!

ラブラッド 検索

LINEで受け取りたい方は @loveblood で検索!

※一部の献血ルームを除きます。

専用の献血カードに変えられる!

通知で見逃さない!

通知で忘れない!

Web会員サービス「ラブラッド」では、検査結果をウェブでチェックできたり、全国の献血ルームの予約ができます。予約限定のキャンペーンやポイントをためて記念品と交換するというサービスもごございます。献血情報なども配信していますので、未加入の方はぜひWeb会員になって献血にご協力いただければと思います。



今後とも「命を救う献血」にご支援ご協力をお願いします。
ご清聴ありがとうございました。

【座長：松崎先生】

ありがとうございました。

献血状況についてお話いただきました。福岡県では
ほぼ予定どおりの献血をいただくことができたということで、
これもひとえに皆さまのおかげだと思っております。